

ゴルバチョフの改革で 加速したソ連崩壊

ゴルバチョフの登場で 冷戦終結へ

1970年代には、原油価格の高騰などにより、つかの間の潤いをみせたソ連経済だったが、内部では共産党幹部の腐敗や労働者の意欲低下などにより、衰退が進んでいた。さらに、79年から始まったアフガニスタン侵攻では、反政府ゲリラの抵抗によって戦局が泥沼化し、ソ連の経済と社会に大きな打撃を与えた。

85年に書記長に就任したゴルバチョフは、こうした状況を打開すべく、ペレストロイカ(立て直し)をスローガンに政治・経済の改革に着手したほか、86年にチェルノブイリ原発事故が起こると、グラスノスチ情報公開を推進した。外交面では、アメリカとの軍縮交渉を進めると同時に、88年にはアフガニスタンからの撤退を開始するなど、西側諸国との協調路線をとった。そして89年12月、マルタ島沖でブッシュ米大統領と首脳会談を行い、冷戦終結の共同宣言を発表した。

改革の進行と ソ連の崩壊

ゴルバチョフは、1990年には憲法を改正して複数政党制を認め、自らソ連の初代大統領に就任するなど国内改革も推進していった。しかし、急激な改革に対す



る保守派の抵抗は根強く、市場経済導入を目ざした経済改革も進まなかった。一方、改革が失速しつつあることに対し、ロシアやカザフスタンなど、連邦内の共和国は批判的な姿勢を強め、ソ連からの独立を志向するようになった。

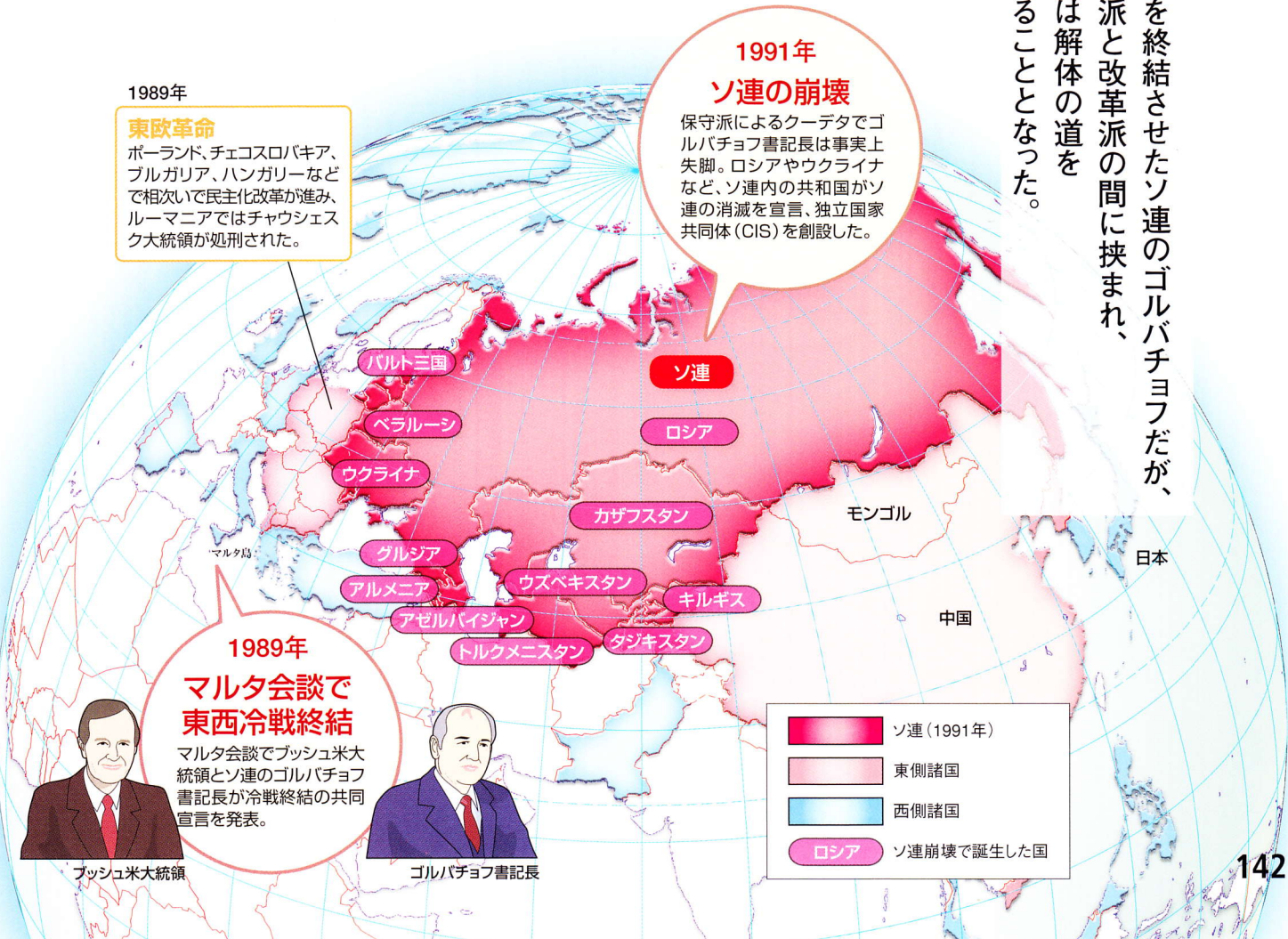
91年8月、こうした事態に危機感を募らせた共産党保守派が、政権奪取を狙ってクーデタを起こした。しかし、ロシア共和国のエリツィン大統領らの抵抗により、クーデタは数日で挫折。これを機にバルト三国が独立を果たすなどソ連は一気に解体へ向かい、同年12月にはロシアやウクライナがソ連消滅を宣言。独立国家共同体(CIS)の創設を決定し、ソ連は正式に解体された。

ペレストロイカと 東欧の民主化改革

1968年のチェコ事件以来、ソ連に民主化要求を抑圧されてきた東欧諸国だったが、ペレストロイカをきっかけにして一気に民主化改革の波が訪れることとなった。89年にはポーランド、ハンガリー、ルーマニアなどで次々と改革が行われ、同年11月にはベルリンの壁が崩壊し、翌90年に東西ドイツが統一を果たした。

冷戦を終結させたソ連のゴルバチョフだが、保守派と改革派の間に挟まれ、ソ連は解体の道をたどることとなった。

冷戦の終結とソ連の崩壊



1991年 ソ連の崩壊

保守派によるクーデタでゴルバチョフ書記長は事実上失脚。ロシアやウクライナなど、ソ連内の共和国がソ連の消滅を宣言、独立国家共同体(CIS)を創設した。

1989年

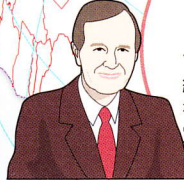
東欧革命

ポーランド、チェコスロバキア、ブルガリア、ハンガリーなどで相次いで民主化改革が進み、ルーマニアではチャウシェスク大統領が処刑された。

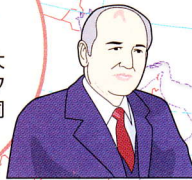
1989年

マルタ会談で 東西冷戦終結

マルタ会談でブッシュ米大統領とソ連のゴルバチョフ書記長が冷戦終結の共同宣言を発表。



ブッシュ米大統領



ゴルバチョフ書記長